（第２号様式）

令和５年３月 29 日

神奈川県教育委員会教育長　殿

県立横浜国際高等学校長

令和４年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（　３月 18 日実施）	成果と課題	改善方策等
１	教育課程 学習指導	・国際教育を推進し、質の高い英語教育と多様な言語や文化を学ぶことにより、豊かな世界観を身に付け、国際社会の課題を認識し、問題解決能力を発揮してグローバルリーダーとして活躍できる人材の育成を図る。	・教科横断型のカリキュラムマネジメントを実践する。 ・総合的な探究の時間のあり方を研究する。	・他教科や国際バカロレアコースにおける授業方法等を学校全体で共有する機会をより一層増やす。 ・生徒による課題発表の場を増やすこと等を通して、継続的に問題解決能力を身に付ける指導計画を構築する。	・教科または全体での振り返りで、授業改善がみられたか。 生徒による授業評価の結果で、充実した学びができたか。 ・課題研究活動を効率的に指導及び評価できる方法を作成できたか。	・主に公開研究授業によって、指導のノウハウを学校全体で共有した。また、生徒による授業評価では、項目２「他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある」で最も高い評価（3.4/5）を得た。	・授業研究のテーマを意識した授業づくりが日常的に行われるよう、テーマの周知を徹底し、職員間の意識の統一を図る。 ・課題研究のより組織的な指導の実現のために、指導の計画やノウハウの共有に取り組む。	・中学３年生の段階で、高校についての認知度や子供の理解が少ないのではないかと思う。また、国際科と国際バカロレアコース間で転籍可能なシステムがあるとよい。 ・公開研究授業は教員同士がお互いに成長できる機会なので今後も続けて欲しい。	・今年度の成果として、公開研究授業によって、指導のノウハウを学校全体で共有できたことが挙げられる。 ・今年度も授業見学や生徒による授業評価に基づく協議を通じて、組織的な授業改善に取り組むことができた。 ・生徒による課題発表の場を増やすこと等を通して、継続的に問題解決能力を身に付ける指導計画を構築することができた。	・新年度は授業研究のテーマを意識した授業づくりが日常的に行われるよう、授業テーマの周知を徹底し、更に職員間の意識の統一を図る。 ・探究学習活動を効果的に指導できる体制を整え、系統的な仕組みを進める。
２	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	・多様で柔軟な生徒支援体制及び相談体制の確立を図り、規範意識を身に付けさせるとともに、生徒の自己理解と相互理解を深めるきめ細かな指導・支援を行う。	・生徒を取り巻く個別・全体的な状況の把握に努めるとともに職員間での情報共有を行い、生徒・保護者が相談しやすい教育相談体制の構築を行う。 ・自主自立につながる生徒支援体制を確立する。	・各年次や保健室、カウンセラーとの連携・情報交換を行い、生徒の状況の早期把握に努める。教育相談やこころの悩みの相談についての情報提供を適切に行う。 ・生徒の自主的な活動が、組織全体の動きを見通した形で運営できるよう指導助言を行う。	・生徒の状況や変容に気づき、職員間での情報共有をもとに適切な対応ができたか（振り返り） ・生徒の主体的な取組みによる行事運営を支援することができたか。	・担任、教科担当、保健室、SCとの情報交換と連携によって生徒の状況把握を行い、支援に活かすことができた。相談内容を踏まえて、年次を超えて情報共有と支援を行うケースもあった。 ・生徒会活動が円滑に行えるように、またコロナ感染予防による制限のなかでの行事の工夫など、生徒とのミーティングを重ね、生徒が主体的に活動できるよう指導助言した。	・困難を抱える生徒が増えるなか、適切な対応のためには外部相談機関との連携やさらに教育相談体制を整え職員にも相談方法など周知していくことが大切である。 ・文化祭など大きな学校行事については、グループが中心に動いていくとともに職員全体で業務を分担し、引き継いでいけるようシステムの構築を行いたい。	・精神的に弱い子が多いと言われているが、運動が鬱に良いとされている。脳の活性化を図るには運動が効果的という考えも存在するので、もっと運動してほしい。 ・不審者対策について、例えば、生徒に名札をつけさせて、機械に通すシステム等の導入できるとよいが、費用が掛かってしまう。本校の七宝焼き生徒バッジを身につけさせると、生徒かどうかが判別できる。また本校関係者同士の暗号を決めて声をかけるなどのルールを決めておくとよい。	・今年度の成果として、各年次や保健室、カウンセラーとの連携・情報交換を行い、生徒の状況の早期把握に努めることができたことが挙げられる。 ・コロナ禍であったが、生徒会役員の生徒と連携し、生徒の主体的な取組みによる行事運営を支援することができた。 ・学校運営協議会委員からのアドバイスにもあるが、不審者対策について更なる訓練や教職員間の意思疎通が必要であると考える。	・生徒を取り巻く個別・全体的な状況の把握に努めるとともに職員間での情報共有を行い、生徒・保護者が相談しやすい教育相談体制の構築を行うことで、生徒支援体制のさらなる充実に向けて取り組む。 ・自主自立につながる生徒支援体制の確立に向け、さらに生徒が主体的に学校行事に取り組むことができるよう、生徒会活動等のサポートを強化する。
３	進路指導・支援	・海外を視野に入れた各生徒の進路希望を把握し、その実現に向け、学習意欲を高め、幅広い学力の習得と定着を図るための授業実践に取り組む。 ・生きる力の育成を目指し、自主的に将来の進路や職業につい	・生徒自らが学力を把握し、目標設定ができるように指導する。 ・教育活動における ICT の活用を推進する。	・国内及び海外大学への進学に向けたロードマップを作成し、３年間の見通しのある進路指導を行う。 ・カレッジカウンセラーを２名に増員し、これまで以上に進学に必要となる情報を生徒が主体的に入手、活用	・ガイダンスルームの資料やチューター制など、さまざまな進路支援体制を生徒自身が積極的に活用しているか。 ・大学が掲げるアドミッションポリシーや学部・学科の特徴やキャリア目標を把握し、生徒	・３年間の指導計画をもとに進路説明会やワークショップを実施し、「何を学びたいか」「自分のアピールできる部分は何か」を考えさせながら進路実現の支援を行った。 ・海外進学に興味をもつ生徒を対象にした classroom を開設し、100 名	・一般選抜だけでなく総合型選抜や学校推薦型選抜など、多様な受験方法に対する支援を充実させていく必要がある。 ・韓国などの非英語圏を目指す生徒が増加しており、生徒だけでなく保護者に対しても計	・韓国への進学など英語圏だけでないことが素晴らしい。 ・海外大学への進学は円安になっているので親の経済状況によって、進学したくてもできない生徒がいるのではないかと心配している。奨学金やその他の支援の情報など、先生方のサポートで励まされて進学に挑戦できる生徒もいるので、是非、お願いしたい。	・今年度の成果として、カレッジカウンセラーの組織改編と拡充化（２名体制）を挙げることができる。各年次において、統一した進路指導を目指す仕組みづくりを確立することができた。 ・国際科も IB コース（１期生）もそれぞれの特色を活かした選抜方法を活用し、国内外大学への進学実績を残すことができた。	・引き続き、国内進学及び海外進学にむけたロードマップを作成し、３年間の見通しのある進路指導を行う。 ・カレッジカウンセラー２名体制を継続して、外部（英語圏以外も視野を拡大）の連携を更に充実させる。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （　３月 18 日実施）	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		て深く学び、人生設計ができる資質能力を育む。		できるよう支援する。	自身のキャリア意識と結びつけることができているか。	程度の生徒に向けて定期的に海外留学についての情報提供を行うことができた。	画的な情報提供を図る必要がある。	・北欧などでは、無料の大学が存在すると聞いている。様々な情報を得ながら、長期的に進路先を開拓するとよい。		
４	地域等との協働	・社会奉仕と環境問題について重点的に取り組み、生徒が主体的に関わりながら、地域に開かれた学校づくりを行うとともに、地域貢献・国際貢献ができるようにする。	・広報活動を通して、地域に開かれた学校づくりを実践する。 ・高大連携の活動を通じて、地域貢献・国際貢献に関する意識を高める。	・学校ホームページのさらなる充実化を図り、これまで以上に学校の取組に関する情報を掲載するなど、充分な広報活動を実施する。 高大連携協定校である東京外語大学や清泉女子大学と更なる連携の強化を図る。	・学校説明会および YIS 英語スピーチコンテストにおいて、地域の中学生および保護者に本校の取組について理解を進めることができたか。 ・高大連携協定校の体験授業等を通じて、地域貢献・国際貢献に関する意識を高められたか。	・学校説明会(計 13 回実施)、IB コース説明会、及び YIS 英語スピーチコンテストを通じて、中学生および保護者に本校の取組みをご理解いただいた。 ・東京外国語大学での体験授業に参加し、地域貢献・国際貢献に関する意識を高めた。	・今年度の学校説明会では、主に動画の視聴を通じて本校の授業の様子を紹介したが、動画だけでは伝わらない魅力を理解いただくために、来年度は体験授業や部活動見学等も企画し、本校の学びや活動の魅力についての理解の促進を図りたい。	・地域との連携が難しいところもあると思うが、進めていけるとよい。「国際高校通り」というプレートがあるが、もっと作成して地域に掲示してもよいと思う。 ・業者によるトイレ清掃が行われているのは良い。トイレだけでなく、ほかの場所も、いずれ業者に清掃してもらえるようになるとよいと思う。	・学校説明会について、今年度は昨年度の合計９回を超える合計 13 回の説明会を実施することができた。地域の中学生及び保護者に本校の取組を理解いただくことができた。 ・学校ホームページやメディア等による情報配信を積極的に行い、地域の方々や中学生に本校の特色や魅力を伝える仕掛けを考える必要性を感じている。	・次年度は、動画による学校紹介のコンテンツの充実化を図り、中学生及び保護者の本校に対する理解促進を図りたい。 ・中学生向けオンライン体験授業など、これまでにない取組み等に挑戦し、中学生のみならず、中学校教職員への理解促進を図りたい。 ・YIS 英語スピーチコンテスト等、生徒の活躍の様子を動画等で記録し、ウェブ学校紹介サイト等で配信する。
５	学校管理 学校運営	・ワークライフバランスに配慮した教員の働き方改革を推進する。生徒の安全のために教育環境を整備し、併せて事故・不祥事防止に努める。 ・生徒の安全のために教育環境を整備し、併せて事故・不祥事防止に努める。	・ワークライフバランスを考慮したうえで、校内のさまざまなしくみを整備し、皆が働きやすい環境を整える。 ・不祥事防止を全校的な取組として徹底していく。	・行事予定や清掃分担表などについて更に吟味し、よりよいものにしていく。 ・不祥事防止会議ではより具体的な内容を提示し情報の伝達に努めていく。	・環境委員会の活動により、校内美化が進んだか。ICT 環境の整備が進んだか。 ・不祥事の事例共有によって、自らの問題として認識し、徹底した取組ができたか。	・職員間の連絡に ICT を活用するなどして働きやすい環境整備が進んだ。 ・不祥事防止の取組みにより、職員の意識の醸成を図った。 ・一人一台端末活用の年次進行及びアクセスポイントの増強などの取組みにより、ICT を活用した教育活動が日常的に行われるよう推進した。	・既存の業務の精選を進めるとともに業務分担を再検討し、ワークライフバランスの実現を制度面から支援してゆく必要がある。 ・新館以外の施設・備品が老朽化しており、計画的に改修め更新していく必要がある。 ・ICT の備品の経年劣化がすすんでおり、継続的に更新する必要がある。	・夏休みに一時帰国している留学生などの人材を活用して、海外の学習の様子など話を聴く機会を設けるとよい。国際科ということで海外のことだけ学ぶのではなく、日本のことも知っていた方がよい。 ・この学校に入学して海外との交流をしたいという生徒が多い中で、コロナ禍でできなくなっていた姉妹校交流等が、再開できるとよい。	・今年度の成果として ① ICT 関連環境の充実 ② 視聴覚資料も含めた図書館資料の充実 ③ コロナ禍以前に相当する式典等の実施 ④ 私費会計簿のチェック強化による正確性の向上 を挙げることができる。 ・業務分担を再検討し、ワークライフバランスの実現を制度面から支援していく必要がある。	・校内のさまざまなしくみを整備し、ワークライフバランスを考慮した教職員全員が働きやすい環境を整える。 ・不祥事防止会議では引き続き、より具体的な内容を提示し情報の伝達に努めていく。 ・不審者の侵入事案を受け、学校安全の確保に向けた対策について検討するとともに、教職員向けのワークショップ等を実施する。